

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 1814 号

Structural diversity of the vastus intermedius origin revealed by analysis of isolated muscle specimens

(単離筋標本の分析によって明らかになった中間広筋の起始領域の構造上の多様性)

吉田 俊太郎 (よしだ しゅんたろう)

博士 (医学)

論文内容の要旨

大腿四頭筋は膝関節の主要な伸筋であり、大腿直筋と3つの広筋から構成されることが知られている。しかし、3つの広筋群については十分に明らかになっていないと言いがたく、解剖学書においても記述の混乱がみられている。本研究は、中間広筋、外側広筋、内側広筋の起始構造を明らかにするために、大腿四頭筋を骨格から剥離した単離筋標本を使用する新しい研究方法を用いて33体の単離筋標本から3つの広筋群の起始領域を分析した。外側広筋と内側広筋の起始領域の形状と位置は一定であるのに対して中間広筋の起始領域の形状と位置は多様であった。典型例(22/33)では、中間広筋の起始は大腿骨の前面、外側面に筋性に付着し、外側唇で外側広筋の起始と接続し単一の起始を形成していた。その他の例(10/33)では、中間広筋の起始は典型例よりも小さく、大腿骨の前面にのみ付着して外側唇に達することなく、外側広筋とは独立した起始を形成していた。本研究は一般的な解剖手段では観察することが難しい個々の筋の構造に対して、単離筋標本を使用する新しい研究方法を用いた。単離筋標本からの観察は個々の筋の構造の分析に役に立ち、中間広筋は外側広筋と内側広筋と比較し起始領域に多様性があることが明らかとなった。